

日本体育協会

総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン

特集

障がいのある人のスポーツを支えるクラブ

筆の里スポーツクラブ

～会員みんなが同じ仲間意識で活動できるクラブ～



キーポイント

- 脳梗塞で肢体不自由になられた2名が参加する卓球教室
- 障がいのある方も健常者も同じ環境で活動してもらう
- 障がいのある方が気後れせずにスポーツできる環境づくりが大事

1 クラブ概要

広島県熊野町(人口約25,000人)で活動する「筆の里スポーツクラブ(以下、クラブ)」は、「暮らしの中にスポーツを!心と体をリフレッシュ!」を理念に平成7年6月に設立されました。設立時は11種目11教室でしたが、会員のニーズを把握することで年々実施する種目を増やし、現在は26種目52教室となっています。

そのなかで今回は、「障がいのある人のスポーツを支える」をテーマに、数年前に脳梗塞で肢体不自由になられた2名が参加されている「卓球教室」取材しました。

2 きっかけ

卓球教室は毎週土曜日15時～17時に行われ、全体では32名の方が参加しています。お二人は脳梗塞になられてからクラブの体力アップ教室に参加しており、その教室が終わった後に通りかかったとき、とても良い雰囲気卓球をしていたのをご覧になったそうです。また、競技志向というより「みんなで楽しく」活動していることを口コミで聞き、それをきっかけに参加するようになったということです。



3 障がいのある方を特別扱いない

実際に教室見学した際に感じたのが、指導者、参加者の皆さんが障がいのある人を特別視するのではなく、一緒に卓球を楽しまれていたことでした。例えば、他の方たちが試合形式で練習しているときは健常者の方とラリーが何回続くかを競い合う、障がいのある方がミスしたときにボールは健常者の方と同様に自分で取りに行く、健常者の方もあえて取りにいかずに待つなど、参加されている方全員が特別視せず、会員みんなが同じ仲間であるという目的のもとで活動されていました。

お二人も、

「以前は違うところでスポーツをやっていたが、最初は楽しくてもやがて競技志向が強くなり嫌になった。この教室は通い始めて3年になるが、教室の趣旨がぶれていないので楽しい」

「体力アップ教室に通っていて、もう少し運動したいと思いクラブに相談したところ、卓球教室を紹介され通うようになった。まだまだ思ったように動かないが、数か月前より半歩前に出て打てるようになった。家に1人でいると気持ちが沈んでしまいがちになるが、外に出てスポーツで汗を流して、色んな人と話すことで気分転換になる」

とおっしゃっていました。

また、以前「卓球教室」に参加されていた肢体不自由だった方が、体力の回復に合わせて職場復帰を果たされるなど、効果も現れてきています。



4 いかに全員が楽しめるかが大事

クラブでは、障がいのある人が総合型クラブで安心してスポーツを楽しむために、各教室の指導者には資格の有無ではなく、仲間づくりをサポートし、みんなで楽しく健康づくりに取り組める環境を作ることができる能力を重視しています。

また、クラブマネジャーが時々教室に顔を出して教室の雰囲気をつかみ、少しでもおかしいと感じた時は指導者と話し合うことで、参加している全員がスポーツを楽しめるように修正する等の連携が取られていました。

クラブマネジャーの大野さんからは「障がい者の方はどうしても健常者の方に対して気後れしてしまいやすいので、指導者がその部分に十分に配慮し、継続してクラブに通っていただけるように留意している」とお話しいただきました。

「遍く人々が差別なくスポーツの恩恵に浴する」ために、地域での総合型クラブの力が今後ますます必要になってくると感じました。

(広島県クラブアドバイザー 茂川 真二)

クラブプロフィール

設立年月日：平成7年6月

地 域：広島県安芸郡熊野町

運 営：会員数…1,027名(平成25年7月現在) 予算規模…約740万円(平成25年度)

連 絡 先：〒731-4223 広島県安芸郡熊野町川角5丁目10-1

TEL:082-854-7695

FAX:082-854-9622

E-Mail: <http://www17.plala.or.jp/kumanokss/club.html>